

編集後記

国際日本学専攻の発足を記念して、今年7月に、3日間の国際シンポジウムを企画した。その記録と報告をお届けする。

国際的視点から日本文化をとらえようとする本専攻は、文学・語学・歴史・地理・哲学・服飾美学・音楽・舞踊・日本語教育の専門家の集まりである。

シンポジウム「新しい日本学の構築」は教官にとっても学生にとっても、知的興奮とさまざまな出会いに満ちた3日間であった。

最近の学問の専門化・細分化には著しいものがあるが、それぞれの分野をひとつの大きな日本学の中に位置づけてとらえる場合、今までにない広い視野が要求される。海外からの講師をお招きしての公開講演会（3日め）、および海外の日本研究者と日本国内の研究者集団のネットワークの構築についての議論（2日め）は、その意味で私達に大きな刺激と指針を与えるものであった。また、多くの留学生とともに学ぶ本研究科の教官・学生として考えさせられるところ大であった。

また、もうひとつのねらいは、本研究科の特色「学際性」を生かした指導態勢、環境下に育った卒業生・在校生の研究発表の場、交流の場を設けることであった。これは6つの分科会（1日め）として学外の研究者の参加も得て、大変な盛会となった。

参加して下さったすべての方々に厚く御礼申し上げる。

また、企画・準備段階からパンフレットの作成、当日の会場設営・案内受付・記録資料保存、また、懇親会や昼食の用意、会計など、縁の下で支え労を惜しまなかった委員の先生方、学生諸姉に深く感謝したい。

本報告書の作成にあたり、速やかに原稿をお寄せ下さった講演者、報告者、分科会発表者の方々、多忙な中、巻頭挨拶をお寄せ下さった学長、挨拶と巻末の英文による全体紹介をお寄せ下さった研究科長、また、校正して下さった司会者の先生方に感謝申し上げます。

最後までより良いものを作成しようと努力を重ねた報告書作成担当の谷口幸代教務補佐、清水淑子教務補佐とともに報告書の完成を喜びたい。

国際日本学専攻長 平野 由紀子